

『18歳を市民に』

高生研

第61回全国大会 2023 東京大会

会期・会場

2023年

8月16日(水)～18日(金)

成城大学



大会テーマ

「対等な関係性を探る生活指導 ～『ケアの倫理』を手がかりに～」

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月 16日 水			受付 10:30～ 入門講座 11:00～12:15				全体会 13:00～17:00		休憩	交流会1 17:30～19:50		
17日 木	受付 8:40～		一般分科会 9:00～12:30		昼食休憩 12:30～ 13:30		一般分科会 13:30～17:00		休憩	交流会2 17:30～19:50		
18日 金	受付 8:40～		問題別分科会 9:00～12:00		昼食休憩 12:00～ 13:00		別れのつどい&総会 13:00～15:30					

入門講座 8月16日(水) 11:00～12:15

「不登校当事者の声から学校を問い直す」

小川京子

当事者のレポートをもとに、学校の何が彼らの居場所を奪い、傷つけていったのか。彼らの声から、不登校と一緒に考えていきましょう。

全体会 (開会行事・基調討論 8月16日(水) 13:00～17:00)

高生研 2023 東京大会 基調発題 塚本 徹(静岡)

「対等な関係性を探る生活指導 ～『ケアの倫理』を手がかりに～」

ゼロトレ的な学校管理体制のなかで、生徒の人権を尊重しようと対等な関係性を探ってきました。学年主任として一生徒の退学を止められなかったこと、発達に課題を抱える生徒との関係で学んだこと、職員会議を通してチケット制を無くしたこと。いま管理とケアのはざままで悩む皆さんと共に読み解きたいと思います。

～対面をベースにした大会運営ですが、オンライン参加も受け付けてます！

たくさんの参加をお待ちしています～

主催：全国高校生活指導研究協議会

<一般分科会 8月17日(木) 9:00~12:30>

1 【特別支援】 過酷な現実(いま)に揺れる生徒に伝えるということは 河上 馨

特別支援学校に通う、外国にルーツをもつ高校生タクミ。容易には見えなかった過酷な現実揺れていたタクミを担当し応答しようと試行錯誤した記録を報告する。家庭や交友関係にどこまで踏み込むのか、どんな対応をしていけるのか、考えていきたい。

2 【生徒会・総合学習】 協働の力で、学校をそして社会を変えていこう！ 清水直哉(神奈川)

入学した中1のとき、「シネシネ」言うのがとまらなかった子どもたちが、5年間の生徒会活動・総合学習・プロジェクト活動を通して、互いの個性を尊重し合える関係性を育み、社会を変える主体者として成長していった中高5年間の実践を報告する。

3 【HR】 行事づくりの中で生徒の課題に向き合い、支える 田島直樹(大阪)

田島さんは教員3年目。1年生の担任として教員生活をスタートさせてから様々な生きづらさを抱える生徒と向き合い、支えてきた。行事の中で生徒たちは自分の思いを文字にして語り合う。田島さんは持ち上がりで3年生の担任となった。生徒の成長、変化を実践分析の中で読み解く。

4 【授業】 「授業で最も伝えたいことはなに？どんな授業が良い授業？(仮)」 村上菜都美・竹澤成那(大阪)

一人ひとりの生徒を大事にする授業をつくるために、20代教員である私たちの授業イメージが大きく変わった。思った通りに授業ができなかった時、その場で私たちがやっていること、授業と結びついているその他の秋桜での取り組みを報告する。悩みながら私たちがつかんだことを語り、考え合いたい。

<一般分科会 8月17日(木) 13:30~17:00>

5 【HR・生徒会】 「あたりまえ」が更新されるとき 本多茉美(東京)

本校の座席は男女市松模様にするのが「あたりまえ」だった。また、生徒会行事の体育祭は主に男女別球技大会である。それらは、クラスのある生徒にとっては辛い環境であることを知ったリーダーたちは環境の改変に挑むが、そこには様々な大きな壁があり…。

生徒たちと試行錯誤した高校1年生のHRの報告である。

6 【HR】 生徒の人権の尊重と理不尽な校則の壁 森 百恵(静岡)

本校の頭髪指導に対して反発する男子生徒A。時代に合わない指導内容に対して保護者からも不信感を抱かれる。生徒の人権を尊重しながら生徒指導を行うことの限界について深く考えた日々。今一度、教育現場における生徒の人権尊重について一緒に考えてみませんか？

7 【HR】 学校は楽しく！生徒が学校生活をつくるとき 佐藤理河(北海道)

「本当は来たくなかった」。いわゆる「逆流」でやってくる生徒に向き合って、楽しくなければ学校じゃない！HRづくり。強まる管理と統制、何も変わらない無力感、「ヤラされ」感から生徒の声を聞き、ルールを変え、なくされた行事を復活させるとりくみ。

8 【HR】 文化祭～カップは踊る、されど回らず～ 西尾健佑(大阪)

昨年度受け持ったクラス29人の文化祭実践。ヤングケアラーや気持ちが不安定な生徒など問題を抱える生徒も少なくない。しかし、前向きな生徒が多く、文化祭の出し物はコーヒークップに決定。ノウハウも無いなか、試行錯誤し文化祭前日に完成したコーヒークップ。ところが試運転で回らない。リーダーは心が折れて泣きだす。やり方を変えて何とか本番を迎えるまでを中心に報告する。担任としてもっとできたことは？

交流会 8月16日(水) 17:30～19:50

- ① 外国にルーツを持つ高校生たちの声を聴く
- ② 西郷孝彦世田谷区立桜丘中学校元校長を囲んで
～校則を無くした学校づくり、その問題点と課題～
- ③ 基調発題のあとで

交流会 8月17日(木) 17:30～19:50

- ④ 「こだまカフェ」 ～今、私が直面していることから～
- ⑤ 成城学園ツアー ～成城学園の「自由教育」を学び、学園内を見て歩く～
- ⑥ ジャズを聴ける店にいったのしむ（参加者負担 3,500 円）※終了時刻は未定
- ⑦ 発言したいと思えるクラス活動を通して身につけたこと

<問題別分科会 8月18日(金) 9:00～12:00>

1 愛着障害とセクシュアリティ ～児童養護施設、大友実践をもとに～

森 俊二（埼玉）・中田沙希（埼玉）

今、新自由主義のもと虐待的環境や過干渉のもとで育つ子どもが増えている。また、LGBT という言葉が認知され、セクシュアリティに悩む子どもが可視化されつつある。愛着障害とセクシュアリティの問題は教師が子どもと向き合ううえで重要な視点となっている。ここでは、児童養護施設職員である大友が R との関わりを描いた実践をもとに、愛着障害とセクシュアリティについて考えたい。

2 対話と共同によるナラティブ（語り・物語）の生成とエンパワーメント

藤本幹人（滋賀） 見波由美子（埼玉）

渡部基調（2020、'21 年）を、「ケアと対話」「ナラティブ」「共同」「エンパワーメント」の視点を参照し、次のように問うことで深めたい。「性自認に悩む M が、なぜ、卒業式でスカートをはく決断ができたのか?」「『思うとおりに言うことをきかす』指導が幅を利かせていた学校で、なぜ、M のスカートが受け容れられたのか?」。

3 地域高生研の「外」と「内」をつなぐ

～教員が高校生・保護者・卒業生・市民から得るもの～

報告：熊本高生研

「高校生を市民に！」それが私たちの目標。しかし高校の教員の取り組みや学びだけで達成するのは難しい。だから熊本高生研は「市民」と手を繋いだ。高校生も大学生も、親たちや議員だって熊本高生研の例会に参加し共に学んでいる。私たちはそれがシチズンシップ育成への近道であることを知っている。...

4 高校生が一般質問で地域を動した

一模擬議会の取り組み一

酒田 孝（青森）

生徒が模擬議会での一般質問に取り組んだ。生徒達は 12 の班に分かれ、町議員の指導を受けながら準備を進め、最終的には議会側から絶賛されるような一般質問を行うことができた。模擬議会を通して生徒はリアルな政治を学ぶと同時に、地方の自治体が抱える困難についても学んだ。質問は町議会にも影響を及ぼした。

<高生研大会会場
周辺アクセス>

成城大学のアクセスはこちら↓
<https://www.seijo.ac.jp/access/>



(新宿より小田急線急行
「成城学園前」駅。徒歩4分)

<参加案内>

参加費	全日程（3日）参加	4,000円
	2日参加	3,000円
	1日参加	2,000円
	高生研会員（※会員会費還元により1～3日参加一律）	2,000円
	学生・保護者	1,000円（ただし大会実行委員として参加した場合は無料）
	オンライン参加※	1,000円

※オンライン参加の場合、紀要はPDF ファイルをダウンロードして参加して頂きます。
問題別分科会は限定的です。

申込み方法 「高生研全国大会 2023 東京大会参加申込フォーム」(<https://kouseiken.jp/Taikai/>)
からお願いします。下記 QR コードから簡単にアクセスできます。
オンライン参加の申込締切8月10日、対面参加のフォーム申込み締切8月14日

宿泊 各自でお取り下さい。宿泊施設の予約はお早めをお願いします。
小田急線沿線、特に町田方面がおすすめです。

<大会に関する最新の情報・問い合わせ>

「高生研大会ブローガー18歳を市民にー」

<https://kouseiken.jp/Taikai/>



中 西 治（高生研大会グループチーフ）

e-mail: taikai-chief@kouseiken.jp